

「安全最優先」から 「運行最優先」の営業指導！

「地本情報第943号」で掲載しました、《ホーム安全柵は何のためにあるのか！？》
《JR 東海の驚くべき指導！「一部の可動柵が開いたままでも列車を発車させなさい》で明らかにし、可動柵が開いた状態を確認しても停止手配を取らなくてもよいという営業訓練での周知に疑問を呈してきました。

大丈夫かM営業助役！？正気の沙汰か！？

なんと、営業訓練で自ら周知している「可動柵の閉め忘れ」の柵は、可動柵ではなく、乗務員がラッチキーで開ける扉であると説明しました。即ち、ホーム上の中間付近にあるドクターイエロー（T車）の乗務の際に開け閉めする柵のことを言っているようで、訓練を受講していた多くの車掌は、M営業助役が勘違いしていることを口々にしていました。

しかし、M営業助役は自らの勘違いを正すこともなしに、ラッチキーで可動柵を開けた時に表示ランプが点滅するかどうかも答えられませんでした。

まさに実態を全く把握せず、ちんぷんかんぷんな指導で、
適当にしゃべり、とどのつまり結論は、安全を著しく形骸
化する→「可動柵が開いた状態を確認しても停止
手配を取らなくてもよい」という取扱いの周知
をしました。

この安全を軽視した周知内容には、多くの乗務員が「ランプ点滅確認は停止手配を取る
のが安全な取扱いだ」「運行優先になったのか・・・？」など多くの疑問の声が寄せられ
ました。さらに、乗務員のみならず、他所の営業の管理者も「この取扱いは問題である」
と言った、まともな考えの管理者が存在することも付け加えておきます。

S a f e t y

F i r s t !